

「地政学」を超える国際協調～グローバルな社会における平和と安全～

1 校種・教科・科目（分野） 高等学校・公民科・「政治・経済」

2 単元名 B グローバル化する国際社会の諸課題 (1)現代の国際政治・経済

3 学習指導要領上の位置付け

「政治・経済」の目標「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力」を育成することを目指して、「現実社会の諸事象を通して」現代の「国際社会の諸課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想」させる。

4 カリキュラムマップとの関連性

マップの「政治・高等学校」の「平和で安全な社会」に該当する。「「正しく知ること」が政治への関心につながる」という考えに基づき、現代の国際社会の諸事象について報道・解説した複数の新聞記事とワークシートを組み合わせ、グローバルな視点を引き出すことに留意しながら、現実社会のリアルな事象を教材として取り上げる。

補足説明

「現実社会の諸課題」を通して学ぶために

- ・NIE（Newspaper in Education 教育に新聞を）の活動なども参考としながら、複数の新聞記事を教材として活用して、現代の国際社会の諸事象を取り上げ、授業展開を工夫した。時事的な教材としての有効性ととも、複数の新聞記事とワークシートを組み合わせることによって、学習課題について生徒が考える過程を、授業展開の中に設定し、課題探究型の授業づくりをめざした。
- ・「現実社会のリアルな事象」を取り扱う上で、当然ながら、ドイツの「ボイテルスバッハ・コンセンサス」なども考慮に入れながら、「政治的中立性」について配慮した。
※「ボイテルスバッハ・コンセンサス」→1976 ドイツで成立
 - ①教員は生徒に期待される見解をもって圧倒し、生徒が自らの判断を獲得するのを妨げてはならない。
 - ②学問と政治の世界において議論があることは、授業においても、議論があることとして扱わなければならない。
 - ③生徒が自らの関心・利害に基づいて効果的に政治に参加できるよう、必要な能力の獲得が促されなければならない。
- ・また、公民科教師として「現実社会の諸課題」に向かうことは、公民科の教師としての資質・能力が問われる「領域」であるという認識から、次の点も意識した。
 - ①教師自身が、「問題意識」を持って現実社会をとらえ、現代社会の「課題」を追究していく教授（指導）内容については十分に研究・準備し、扱う問題に関する認識の確かさ（真実性）、情報源・方法の確実性（クレディビリティ）・信頼性（リライアビリティ）、専門性を高めることを心がける。

- ②「政治的中立性」を担保しつつ、教材開発を行うために、リアルな社会的・政治的問題に関する多様な立場や視点から教材・情報を集め、生徒たちに提供する。
- ・特に、「平和で安全な社会」については、日本や世界の政治的な諸問題について、様々な個人や集団の利害が深く関連し、諸問題の解決に向けては、様々な対応策を構想し議論することが必要であることを踏まえて教材を整え、授業展開を工夫した。

5 単元目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
異なる地域の課題を取り上げた複数の新聞記事を活用し、資料読解 「生徒間の意見交流」を通して、一人一人の「メタ認知」をすすめる、自らの思考・判断を「自己更新」	グローバルな視点を身に付け、課題解決に向けた共通の取組を構想 自らの思考・判断の「自己更新」を図り、構想の妥当性や効果、実現可能性などについて公正に判断	現実社会のリアルな事象から「課題」を抽出し、その解決に向けた方策を構想、「生徒間の意見交流」を交えて考察し、「主体的な形成者」として求められる資質・能力を身に付ける

補足説明

「評価」の工夫に留意して「授業づくり」に取り組む

- ・「指導と評価の一体化」を心がけ、「評価」の工夫に留意して「授業づくり」に取り組むことが重要であると考えます。
- ・特に、生徒が主体的に「考える」ためには、「メタ認知」の力（自分の理解状態を、自己診断できる力）が必要であることを意識し、「自ら～する」、「見通し」、「振り返り」などの場面を授業展開の中で設定し、学習活動の節目節目で自らを振り返りながら「自己更新」できることを意図的に取り込み、その育成をめざした。
- ・「評価」の工夫の具体としては、経過、結果、変容、そして、次の課題を授業展開の過程で明確にし、その各段階における学習の達成状況について、生徒と教師、生徒同士が相互に確認でき、自己効力感を感じながら学習意欲を高め、生徒が学びの「自己調整」に取り組み、学力の「自己更新」をすすめることができるように、授業展開を工夫することが重要であると認識し、ワークシートの活用などを通してその工夫に取り組んだ。

6 単元の特色（教材観）

- (1) 政治に対する「無関心」や「消極的な態度」を克服し、主権者として、主体的に「平和で民主的な国家及び社会」の形成に取り組むことができる資質・能力を身に付けるためには、まず「正しく知ること」が重要である。この認識に基づき、現代の国際社会の諸事象を「政治への関心につながる」という観点から積極的に取り上げる。
- (2) 「身近な教材」として、空間的に身近である「地域教材」、時間的に身近である「時事教材」、感覚的に身近である「興味教材」以上に、その教材に生徒が取り組むことによって身近となる「同調教材」を準備し、取り上げる地域や時期が異なり、また単なる出来事の報道ではなく背景等の解説も加えられた異なる視点の複数の新聞記事

を組み合わせ提示し、学習課題を設定し、課題探究の学習を展開する。

- (3) 日本から遠く離れた地域における諸事象、歴史的な背景や経緯についての論説、そして日本が当事者として関わる近隣地域における諸事象から共通する又は固有の課題を抽出させ、その課題分析とともに課題解決に向けた方策を構想させる。また、これらの諸事象が抱える課題の共通点や特異性を認識したうえで、特に「より良い社会」を築くためには「正しく知ること」が重要であり、そのために必要な取組についても考えを広げ、生徒に自らの具体的な取組を表明させる。
- (4) グローカルな視点をもって、他人事や自分事の区別を超えて、課題解決に向けた道筋を考察・構想させ、「地政学」を超える国際協調の重要性について理解させる。

補足説明

1) 「教材」の選択（先の科研費プロジェクトの成果を継承）

- ① 以前、本学会で取り組んだ、「公共」の単元モデル開発に関する科研費プロジェクトで開発した素材（教材）を活用して「授業づくり」の実践研究を進めた。具体的には「排他的経済水域」に関するものである。効果的な関連資料（新聞記事）等も、先の研究以降、継続して収集していたものを活用した。
- ② 先の科研費プロジェクトでは、「排他的経済水域」から日本の現状、近隣諸国との間の国際問題、さらには、グローバル化が進む中でさまざまな問題について、リアルな現実社会の諸課題を通して「考える」単元モデルを開発した。
- ③ 日本は実は小さな島国ではなく、排他的経済水域等を含めると「海洋大国」であり、資源開発の可能性による「権益」も期待される。一方で、その「権益」をめぐる、国際的な対立や紛争を生む可能性もあり、資源開発の可能性とともに、近隣の関係国との問題にも直面している事実を取り上げた。また、「権益」を守るための手立てとして、海上保安庁、自衛隊、海洋調査技術、その他の必要性などについても、授業で学ぶプランであった。さらに、グローバル化が進む中、変化する国際情勢のもと、自国の排他的経済水域についての問題ばかりでなく、他国の排他的経済水域と日本の遠洋漁業との「ジレンマ」など、関連する様々な問題についても考えさせた。

2) 「授業づくり」に向けた発想

- ① 「正しく知ること」が、無関心や政治の動きについて、他人事ととらえる傾向を克服し、主体的に思考・判断して「政治につながる」という考え方にに基づき、教材化する素材を吟味し、教材を作成した。
- ② 「「地政学」を超える」とは、地理的な要因ばかりに、ものごとの判断基準を限定することなく、「平和で安全な社会」を築く上での普遍的な価値基準を、より広範で具体的な事象から見いだすことを目指すものである。また、グローバルとローカルの両方の視点を統合した「グローバルな社会」という視点も取り入れた。また、生徒間の「意見交流」を通して、異なる視点から物事を考察することと、その多面的・多角的な考察を互いに共有することの重要性を理解し、自らの考えを「自己更新」させる活動を、授業展開の中に取り入れることをめざした。
- ③ 生徒間の「意見交流」とは、ワークシート（資料参照）を用いて、まず、学習課題について各自の考えを言語表現（他者が読んで、内容を理解できる程度に簡潔に書く

こと)させ、それを複数の生徒間で回覧しながら、回覧した生徒が「コメント」(感想・意見等)をワークシートに書き込み、紙面上で意見を交流する学習方法。

7 単元計画

(1)単元の構成 2時間配当の構成

(1時間目)→トルコとキプロスの排他的経済水域内でのガス開発の紛争記事について、新聞記事を資料読解する中で、現代の国際政治・経済に関する問題を理解する。個別に構想した問題の解決策を、ワークシートを用いた「生徒間の意見交流」という手法で「相互評価」させ、「平和で安全な社会」を形成する主体として、自らの思考・判断を深める。さらにその問題解決に向けた方策を構想し適切に判断するためには、どのような「知識」や「情報(判断材料)」が必要であり、それらを獲得のためにはどのような取組が重要であるかを考え、簡潔に文章で表現させる。

(2時間目)→イギリスのEU離脱を決めた国民投票の背景にある問題を理解し、次に日本の排他的経済水域はじめ近隣諸国との問題について、「平和で安全な社会」を前提として、その問題の平和的な解決に向けた取組を支える「知識」や「情報(判断材料)」について、どのようなものが必要か、またその獲得に向けた自らの取組について考えさせる。一連の課題を通して「正しく知ること」への主体的な取組を促す。

(2)指導過程

段階	学習活動(学習内容)	学習形態	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
(1時間目) 導入 課題説明5分 個別学習25分	ワークシートを活用 課題1)新聞記事からトルコとキプロス間の「問題」を理由をあげて抽出 課題2)「平和で安全な社会」を築くためにどのような問題解決の方策があるか、実現の条件と期待される結果を説明	個別にワークシートに取り組む 新聞記事を読解して「問題」を抽出 問題の解決策について実現の条件と実施後の結果を具体的に構想し他者に伝わるよう論理的に文章表現	比較読解できるようにA3版用紙に2つの記事を並べて提示 「トゥールミン方式」の論理構造を説明 読んで意図が伝わる表記を指示 他者の考えに共感・異議・疑義など率直に表明し「コメント」を行うよう指導 「知ること」の重要性について指摘	ワークシートで評価 約半年の経過がある資料を読解し「問題」を抽出できる 問題の解決策について実現の条件と結果を構想できる 解決策を他者に伝わる文章で表現できる 他者の考えに対してその意図を読み取り率直な意見を「コメント」できる 他者からの指摘を踏まえて考えを深めることができる
展開 意見交流7分 まとめ 13分	課題3)課題1)2)を3名の生徒に回覧し「コメント(感想・意見)」をもらう 課題4)方策を考えるためにどのような「知識」や「情報」が必要か	3名の生徒にワークシートを回覧、一人2分を配当して課題1)2)の「コメント」記入 他者の「コメント」を踏まえ自らの考えを検証し、考察を深化させ具体的な手立てを考える EU離脱の記事のみ提示	記事で取り上げられている事象と記事で指摘されている事柄を分類して抽出 「正しく知ること」の重要性を再度補足説明 課題3)に取り組む段階で記事を配布する 自分事として考えさせ「正しく知ること」への主体的な取組を促す	EU離脱の事象理解とEUについての取扱いの問題点の指摘を抽出できる 他者の考えに対してその意図を読み取り率直な意見を「コメント」できる 前時と本時の課題を通して考察したことを踏まえ、自らの考えをまとめることができる
(2時間目) 導入 EUの説明15分 個別学習13分 展開 意見交流7分 補足説明5分 まとめ 10分	課題1)EU離脱の新聞記事で指摘されている国民投票に至る問題点を抽出 課題2)課題1)について3名の生徒に回覧し「コメント(感想・意見)」をもらう 課題3)「平和で安全な社会」を目指して問題解決に向けた方策を考えるために必要な「知識」や「情報」は何か、それを知るためにあなたはどのような取組を考えるか	日本の排他的経済水域に関する記事を提示 自分事として日本が抱える問題の解決に向けた方策を考えるうえで必要な取組を考える		

補足説明

公民科の各科目はすべて標準単位数が 2 単位の科目である。様々な工夫を凝らした授業実践を、「年間指導計画」の中に組み込み、実際に授業を行うためには、できる限りコンパクトな指導計画、授業デザインが、「現場のニーズ」に応えるものとする。

8 カリキュラム・マネジメント

生徒に提示する適切な新聞記事等を用意するために、日常的な情報収集が必要である。今回は、読売新聞と朝日新聞から各 2 つずつの記事を配布資料として活用した。

9 本時の授業展開

「授業展開」については、「7 単元計画」の「(2)指導過程」の通りである。ここでは特に、授業展開の工夫について報告させていただきたい。

授業の展開の工夫

- ①地球の裏側の地中海で起こっている、トルコとキプロスの EEZ（排他的経済水域）に関わる複数の新聞記事を比較しながら読み解き、生徒に、複数の新聞記事で報じられ、その記事が扱う事象の底流にある「課題」を抽出させ、自分なりの解決方法を考えさせた。その課題と解決方法について、めざす解決後の状態を構想させながら、「ツールミン方式」を応用したワークシートにまとめさせた。（資料参照）
- ②ワークシートを回覧し、紙上での「意見交流」をさせ、読み解いた「課題」の相違とその解決方法に向かう考え方の相違を生徒間で互いに比較検証させ、異なる視点から物事を考察する実際を、紙上での「意見交流」を通して体験させ理解を促した。
- ③あえて、このワークシートを交換して「意見交流」する指導方法を取り入れたのは、昨今の生徒の実態として、グループでの討論や協議への慣れによる効果の低減と、生徒間でグループ討論や協議への参加の深まりに、ばらつきが見られる点を克服すること、さらに、逆に、SNS 等に慣れ親しんだ世代として、簡潔な言語表現力とそれに対する「コメント」への積極的な取組を得意とする傾向を有効に活用することを、意図したからである。
「意見交流」の実際は、まず提示した学習課題について、各自の意見を簡潔に言語表現させ、次に、それを時間を区切って回覧して「意見交流」させる。この指導方法を、複数回、いろいろな単元の授業の中で実施した結果、例えば、6 分間を配当して 1 人 2 分間を割り振り 3 人で回覧した場合と、5～6 分間のグループ討論や協議を実施した場合の生徒の反応を比較すると、前者の方が、生徒一人ひとりの取組の深まりがみられた。なお、この指導方法について、更なる効果等の検証・評価は、引き続き、他の教材等においても、実践を通して行っていく予定である。
- ④生徒間の「意見交流」の後、問題解決に向けた方策等を考える際に、どのような「知識」や「情報（判断材料）」が必要であるかを考えさせ、続けて言語表現させた。
- ⑤2 時間構成のうち、1 時間目に「トルコとキプロス」を取り上げ、2 時間目に「イギリスの EU 離脱の背景解説」の新聞記事を提示し、④の思考・判断に必要な「知識」や「情報（判断材料）」を各自で再確認させたうえで、生徒間の紙上での「意見交流」を行った。最後に「日本近海（EEZ 関連）」の新聞記事を提示し、「平和で安全な社会」

を目指して、問題解決に向けた方策を考える取組について、自分事としての意見を言語表現させた。

10 生徒の学習成果とその評価

「資質・能力マップ」との関連から、次のような成果が得られたと考える。

1) 「情報リテラシー」に関連して

「マスメディアやソーシャルメディアが我が国の政治や国際政治に大きな影響を及ぼしていることを理解し、情報を適切かつ効果的に収集し、批判的に読み解き、活用する能力を身につける。」について、授業との関連で評価すると次の成果が得られた。

- ・異なる地域の課題を取り上げた複数の新聞記事を活用し、資料読解の学習課題を通して、「グローバルな視点」を身に付け、課題解決に向けた共通の取組を構想する学習活動を通して、育成することができたと考える。
- ・紙面での「意見交流」を通して、他者の意見や考えを批判的に読み解き、自らの考えを表現し伝える（発信する）ことができた。また、自分の意見に対する他者の「コメント」を読むことによって、自らの考えや意見の見直しが図られていた。

2) 「政治参加への意識」に関連して

「より良い社会は、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を整理して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解しようとしている。」について、授業との関連で評価すると次の成果が得られた。

- ・政治に対する「無関心」や「消極的な態度」を克服し、主権者として、主体的に「平和で民主的な国家及び社会」の形成に取り組むことができる資質・能力を身に付けるためには、まず「正しく知ること」が重要であると考え。この認識に基づき、現代の国際社会の諸事象を「政治への関心につながる」という観点から積極的に取り上げ、個々の考察・表現と生徒間の「意見交流」を組み合わせ、段階的な学習活動に取り組む中で、育成することができたと考え。

3) 「政治的な諸問題の解決に取り組む態度」に関連して

「日本や世界の政治的な諸問題は、様々な個人や集団の利害と深く関連していることを知り、その解決に向けて、様々な対応策を構想し、議論しようとしている。」について、授業との関連で評価すると次の成果が得られた。

- ・「身近な教材」として、空間的に身近である「地域教材」、時間的に身近である「時事教材」、感覚的に身近である「興味教材」以上に、その教材に生徒が取り組むことによって身近となる「同調教材」を、読解用の新聞記事資料とワークシートとして準備し、取り上げる地域や時期が異なり、また単なる出来事の報道ではなく背景等の「解説」も加えられた異なる視点の複数の新聞記事を組み合わせ提示し、段階的な学習課題を設定し、課題探究の学習を展開する中で、育成することができたと考え。

11 「18歳市民力」育成に向けての提案

今回のこの授業実践に関連して、次の2点について、「授業づくり」の視点として報告したい。概要のみの報告となるが、これまでの授業実践の中で得た着想である。公民科

としての教材を研究し、授業を構想する上での、私なりのよりどころの一端である。

1) 「課題」から「争点」を導き、「解決策（政策）」を構想させる

新聞記事を用いて、現実社会の「課題」を抽出し、その「課題」の解決方法を「政策」の形にまとめさせる事例である。異なる意見の比較検証、合意形成の過程を設定する。まず、新聞記事を各自で読み取り、記事を選択して「ニュースレポート」を作成させる。次に、その「ニュースレポート」をグループに持ち寄り、記事から読み取り抽出した「課題」をもとに、今日的な「争点」からそれぞれ「解決策（政策）」を構想させる。「現実社会の諸課題」についての興味関心、批判的な思考力・判断力、自らの考えを表現し、異なる意見を捉えながら、合意形成に向かう力を育成する。

授業の流れ

- ①新聞記事を通して、現実社会を俯瞰し、生徒が興味関心を持った社会的事象についての新聞記事を整理し、異なる見解を「争点」の形に仕上げる。
- ②「事実」と「主張・意見」を区別しながら、「課題」の原因や背景を探り、「基礎的な情報（5W1H）」を抽出。「争点」について、解決に向けた政策提言を盛り込んだ「ニュースレポート」の作成。「課題」から「争点」を導かせる。
- ③「争点」から「解決策（政策）」を構想（個人→集団・グループ）
「争点」から「解決策（政策）」に整理する方法の指示として、いつまでに、どのような組織を使い、どれだけの予算をかけて、具体的に何をするのか、関連する新聞記事も情報源とし、具体的にその社会的事象を選択した「理由・根拠」を書き添える。
- ④個人から集団へ、対話を通じた合意（「公約」）形成
生徒を国会議員、グループを政党に見立て、「政策提言ワークシート」にもとづく協働作業を行い、持ち寄った複数の「政策」を選挙の「公約」として取りまとめる。
- ⑤全体発表、質疑応答、そして「投票」
グループでまとめた「公約」を、教室の前面に一堂に掲示し、全体の前で選挙運動風の発表を行い、「公約」についての説明と質疑応答を経て、最も支持するグループを選択する、一人一票の「投票」を行う。「投票」方法は、ポストイットを投票用紙として一人1枚ずつ配布。支持する「公約」の上に添付。
「投票」結果は一目瞭然の情景となり、生徒間の相互評価として、その場ですぐに共有される。
※この実践はNIEの実践事例として、ビデオ化されている。

2) 「2つの対立軸」ばかりでなく、「3つの対立軸」を組み合わせて考察する

対立軸を組み合わせた「マトリックス」を示して、主張する意見等の「ポジション（立ち位置）」分析を行い、意見等を「見える化」し、学習内容の理解の深化を図る。

2つの対立軸の例

事例： 「政府主導 VS 自助努力 × 世代間の公平」 ※3つの対立軸にもなり得る
考察の流れ： 「少子高齢社会と社会保障」という課題を探究していく過程においては、政府主導による福祉の考え方と国民の自助努力による福祉の在り方を対照させ、真に豊かな福祉社会を実現するためにはどうしたらよいか、ということを経代間の公平など「持続可能な社会」という観点から探究をさせたい。

3つの対立軸の例

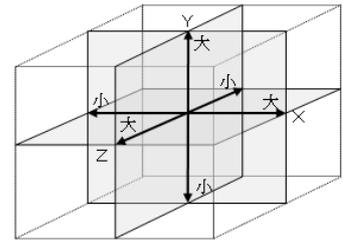
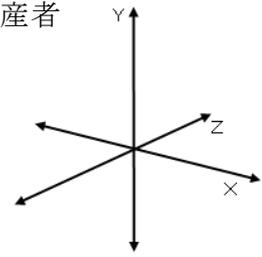
事例： 輸入自由化 VS 食料自給率×都市部の消費者 VS 農村部の生産者
×国土保全 VS 食糧安全保障

考察の流れ：「農産物の輸入自由化」と「食料自給率の向上」のそれぞれの立場にたつて、いまの日本の農業が抱える課題を考えさせる。自由貿易協定などにより、関税が大幅に引き下げられ、都市部の消費者にとっては、安価な農産物が供給される。

生産者の立場からは、日本の農地面積は外国に比べて極端に狭く、農地の大規模化や効率化にともなう農産物の価格競争力の向上には限界がある。また、食糧安全保障の観点や農業の多面的機能を重視した農村の維持の課題もある。

対立軸の設定方法

対立したり、対比するような「概念」や「事象」を、対立軸として組み合わせたり、ある「事象」について「大」「小」など、程度を比較し組み合わせる。学習内容に応じて、工夫し、「ポジション（立ち位置）」分析を行う。さらに、発展的にその「変化（シフト）」なども考察・構想させる。



3) 「18歳市民力」育成に向けた取組みとして

以上のような視点というか発想を実践に生かしながら、公民科の授業を通して、「学び」の主体である生徒に身につけさせたい力（力量）を、私は、次の4点と考えている。

- ①質問し、課題や論点を整理できる力
- ②議論を深め、世論（合意）を形成できる力
- ③方策を工夫し、課題解決に向けて行動できる力
- ④他者に共感し、協働できる力

これらの力について、表現は若干異なるものの、私以外にも多くの方が類似のご意見をお持ちではないだろうか。そして「18歳市民力」につながるものではないだろうか。

右の新聞記事は、今回のこの授業に際して、生徒に提示したものである。

イギリスのEU離脱について解説した記事には、「中学、高校などの学校教育で、EUのことをほとんど教えてこなかった」「EUは政治的に微妙な問題」「教えにくいテーマ」といった指摘がなされていた。

日本近海の国際問題について解説した記事では、実態の把握の困難さと重要性が指摘されていた。これらを生徒とともに読み解く中で、上記の①～④の力を身につけ、鍛えることができればと考えた。

資料としてワークシートも添付させて頂く。その中に記載した「学習テーマ（主題・命題）」、「課題」として生徒に課した「問い」から、今回の実践研究の狙いをご理解いただければ幸いである。

提示した新聞記事「EU離脱」と「日本近海」



読売新聞 2019. 5. 22



読売新聞 2019. 5. 23

川瀬雅之（市立札幌新川高等学校）

資料 ワークシート①

R4 3学年「政治・経済」 課題学習プリント

「平和で安全な社会」

「地政学」を超える国際協調～グローバルな社会における平和と安全～

新聞記事資料の読み取り

クラス() No.() 氏名()

学習テーマ(主題・命題)

配布の新聞記事資料を通読し、次の課題について、考えてみよう

- (1) 現代の国際社会において、実際に起こっているリアルな「問題」について、その解決に向けた「方策(問題の解決策、危機的な状況を回避するための手立てなど)」を考えてみよう
- (2) 国際社会において起こっている「問題」について理解し、その解決に向けた「方策」を考えるためには、どのような「知識」や「情報(判断材料)」が必要か、また、何について知る必要があるか、整理してみよう

課題(1)

資料の新聞記事で取り上げられている事柄は、現代の国際社会において実際に起こっている事柄です。あなたは何が「問題」だと考えますか。「問題」と考える理由も挙げて、書き出してみよう。

課題(2)

(1)であげた「問題」を解決し「平和で安全な社会」を築くために、どのような「方策(問題の解決策)」があると、あなたは考えますか。そして、その「方策」が実現すると、どのような結果が期待できますか。又実現にはどのような条件が必要ですか。できる限り具体的に書き出してみよう。

方策	 	結果
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

条件

課題(3)

課題(1)(2)を、周囲の3名に回覧し、あなたの考えに対する「コメント」(感想、意見等)をもらおう。

氏名()
氏名()
氏名()

課題(4)

国際社会において起こっている「問題」について、その解決に向けた「方策」を考えるためには、どのような「知識」や「情報(判断材料)」が必要だとあなたは考えますか。

資料 ワークシート②

R4 3学年「政治・経済」 課題学習プリント No.2

「平和で安全な社会」

「地政学」を超える国際協調～グローバルな社会における平和と安全～

新聞記事資料の読み取り (2)

クラス() No.() 氏名()

学習テーマ(主題・命題)

配布の新聞記事資料を通読し、次の課題について、考えてみよう

- (1) 「**正しく知ること**」が**政治への関心につながる**...という指摘がある。現代の国際社会において、実際に起こったリアルな社会的事象について、その背景や経緯、さらにはその結果についての「指摘」を読み解いてみよう。
- (2) 「政策」について、選択したり、判断したりするためには、どのような「知識」や「情報」が必要であり、何を学ばなければならないか、具体的な事例を通して考え、整理してみよう。
- (3) その上で、**我が国に関する「課題」の解決に向けて、何について知る必要があるか**、整理してみよう。

課題(1)

資料の新聞記事で取り上げられている、イギリスの国民投票で「EU離脱」が決定された背景と経緯について、記事の中で「問題」として指摘されている事柄を、書き出してみよう。
又あなたは、その「指摘」についてどのように考えますか。賛同する、違うと考える、どちらとも言えないなど、考えの立場を示し、その理由も明らかにしながら、できる限り具体的に述べてください。

「問題」として指摘されている事柄

--

「指摘」についてのあなたの考え

--

課題(2)

課題(1)を、周囲の3名に回覧し、あなたの考えに対する「コメント」(感想、意見等)をもらおう。

氏名()
氏名()
氏名()

課題(3)

日本の排他的経済水域に関連する新聞記事を読み、その中で指摘されている「問題」について、「**平和で安全な社会**」をめざして、**問題解決に向けた「方策」を考える**ためには、どのような「知識」や「情報(判断材料)」が必要だとあなたは考えますか。又**その「知識」や「情報」を知るために**、あなたはどうしますか。(どのような取組みをするか、具体的にあげてください)

--